

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

(西曆一千八百九十三年)

一號 貳錢五厘〇一ヶ月 前金五拾錢〇三ヶ月 前
金壹圓四拾五錢〇六ヶ月 前金貳圓八拾五錢〇一ヶ
年 前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年
始年末等一切休刊セズ）

一 日本國內並に朝鮮國京城、

- 一 日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山、津南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國 一ヶ月 金拾三錢
- 二 北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋 一ヶ月 金六拾錢
- 三 香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、澳洲 一ヶ月 金三拾錢
- 四 露領滿洲斯德、清國諸港 一ヶ月 金六拾五錢
- 五

一行	五號磅字廿四字詰	一日限	一日以上
一行	二	六日限	七日以上
付	十三錢十一錢十錢五厘		

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より
 各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を
 填寫するより各社同一の記事を掲ぐるものと算からず獨
 り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社
 に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通
 信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信
 ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も算か
 らざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に
 本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書原稿は凡て寄稿者に返
 戻せず又本社に保存せず

有價證券の保險

近來歐米諸國にては保險の事業大に發達して種々様々の保險會社陸續現はれ出る其中に最も耳あたらしき新工風とも云ふ可きは有價證券保險會社なるものにして其業務は専ら鐵道、礦業、製造其他諸會社の株券社債等及び政府の公債等都有價證券の保險を爲すに在りて若しも其引受けたる證券にして保險期限内に利子配當金を拂ひ得ざるが如きとあるときは一切ふれを支辨するは勿論、或は時宜に依りては元金額をも辨償するの責任を負ふものなり英國米國等にては既に此類の保險會社を設立して榮業するものも少ならず今後ますます流行せんとするの勢にして新設の株式會社が資金を募集するときは右の保險會社に其保險を依頼して以て出金者の心を安んぜんんとを謀る者多しと云ふ例へば通般倫敦の某製鋼會社は新に五分利付の社債二十萬封度と募集するに當り其廣告文中に「有價証券有價證券保險會社は今回の社債應募者の需に應じ一年百封度に付十志の割合にて元利共に保險す可し」と云ひ又加奈太モントリオルの水力會社は十二萬封度の社債を募集するときに「左の保險會社は本社の債主の爲めに社債券の額面百封度に付現金六封度づつを

月を直接に商賣工業に従事せざる者が其所有金で活用せんとするには慥なる有價證券を买入のよりを便利の法にして世人の皆共に知る所なれども如何にせん數多き株券債券の中に正確なるものと危険なるものとを見分るは尋常人の容易に爲し能はざる所なれば假令ひ眼前に利益の香ばしき有價證券を見るも先づば之に錢を投ずるふとを見合はせて却て薄利なる地所田畑などを買ふ者多きは世間普通の人情なり然るに今若し前記の如き保險會社なるものありて資本家の望に従ひ聊かの保險料を取りて其買はんと欲する株式債券の危険を引受け萬一の場合には元利共に辨償す可しとの約束を爲す以上は是れが爲めに投資に伴ふ不安心は大に減少し資本家に取うては實に無上の便利なるものと曝々を俟たずして明なり且つ又保險會社の方にては常に諸般の會社に就き其營業會計の模様など綿密に取調べて危險の恐あるものには保險料の割合を高くし或は全く保險を拒絶するふともあるが故に世間にては保險會社

○大藏省令第十八號

雜報

○正誤 去る一日の本紙雜報中浪速鐵道株主と題し鴻池善右衛門、同新十郎、高松長衛門三氏の持地を同會社より買収したるを爲し其代價として株券百枚を以てすとの相談を爲したるも右は事實相違にて同社より敷地買入の相談を爲したるものと申込ありたるに付き前報を正誤す

黨の代議士中には最初賛成の意見を有せし人も少なからざれば同所設立の發起人は自由黨の力を假りて議會の通過を希望しつゝあるものゝ如くなれども近時同黨は金錢上の關係より面白からざる世評を受け居る矢先きなれば此際補給利子の支出に同意を表して一層世人の疑忌若くは邪推を蒙るも得策にあらすとの考を有し最初賛成を表せし人も大に躊躇するの氣味ありとの事なり左れば國民協會は如何にと云ふに是亦賛成の模様なく改進黨は舉て之に反對するは言ふ迄もなき事なれば假令今本問題の議會に提出さるゝにもせよ通過の望は覺束なしと云へり

として一定せざれども要するに同黨は軟化したりとの
 説は萬口一様なり此際同黨は全力を擧げて其然らざる
 所以を世間に發表するにあらすんば黨勢の消長に關す
 るのみと大方ならざるべし近時十數年前の贗札事件を同
 黨機關新聞に掲載し尙ほ事の成行を議會に持出して大
 に現内閣の有力者を攻撃せんとするの計畫あるは一に
 軟化打消の策略にはあらずやと評するものあり

●尾崎氏一行の遊説日取 改進黨員尾崎行雄

以て普く縣下を遊説し尙ほ長野縣にも立寄るたぢよとの事な

藝出身の人々は目下渠中休暇にて歸郷し居る者もあればとて去月下旬同地の中武と云へるに同窓會を開きたる處何れも皆同郷にして而も同學の人々なれば別して遠慮する所もなく打寛いで舊を話し新を語りて時の移るを覺えず當日來會したるは左の諸氏なりとて同地よりの通信に見えたり

梅田 才三郎
 大塚 富市
 帆足 恒雄
 磯村 豊太郎
 福田 半田
 宮永 鐵一郎
 熊吉
 後藤 龜井
 宮永 陸
 半太郎 巳之吉

義捐金の寄贈 昨年四月朝鮮國近海に於て難破せしたる日本郵船會社汽船出雲丸遭難者の爲め募集せし義捐金の殘金は此程同義捐金募集發起人總代加藤正義氏より日本海員救濟會に寄贈し全く其事務を了りたるよし其往復の書面は左の如し

拜啓昨年四月五日朝鮮國所安鳴近海に於て難破したる當社汽船出雲丸乗客船員中船長の不幸に罹りたる者の爲めに當時援捐金募集の工夫分配制度未精故に幸族の有無不分明等の爲め交付方針は各の分及配差金等の殘餘合金二百二十五圓八十三錢七厘有之右に鳴瀨海員救

之然るに元來此當救恤の資に相

の資金中に差加
取計可申候右御
明治廿六年八月
日本郵

○兌換銀行

至る一週間平へいしゅう
び流通高等をゆうつうたか

證保並備準
商證政公 銀貨及金
業手 府債證 正貨合
保證合

流通高

○官設鐵道

鐵道收入表左

入	收	車	客
同	手荷物	同	旅客
郵便物其他貨	小荷物數	貨	人

人 收 1
貸 1
切
車 1

収入總
●な
●浅草座は
場し去る二十

見物なりし借
の紙上に記せ
蘇玄蕃の二役
筋を二日づい
しなれば猶番
●新演劇福井
に於て開演す
座は二三度迄
が孰れも不圖
れ居るを君が